

	災害時に拠点となる病院	災害時に拠点となる病院以外の病院	都道府県
ストラクチャー (病院や医療従事者の充実度)	<p>●病院の耐震化率 H29:68%(89/130)→H30:72%(91/126)→R元:73%(89/122) (※R2.3時点)</p>		<p>●医療活動相互応援態勢に関わる応援協定等を締結している都道府県数 8県(中国・四国地方の災害等発生時の広域支援に関する協定)</p> <p>●DMAT、DPAT等の緊急医療チーム数及びチームを構成する医療従事者数 DMAT H29:41チーム(218名)→H30:45チーム(245名) →R元:46チーム(274名)(※R2.3時点) ※DPATは災害時に必要に応じて編成するためチーム数の記載はできない。</p> <p>■高知DMAT研修(ローカルDMAT養成研修)の受講者数 H29:56名→H30:29名→R元:56名</p>
	<p>●複数の災害時の通信手段の確保 H29:100%(12/12)→H30:100%(12/12)→R元:100%(12/12)(※H31.4時点)</p> <p>●多数傷病者に対応可能なスペースを有する災害拠点病院の割合 H29:75%(9/12)→H30:75%(9/12)→H31:75%(9/12)(※H31.4時点)</p>	<p>●災害拠点病院以外の病院における業務継続計画の策定率 H29:33%(39/118)→H30:39%(44/114)→R元:44%(50/113)(※R元.6時点)</p> <p>●広域災害・救急医療情報システム(EMIS)への登録率 H29:100%(118/118)→H30:100%(114/114)→R元:100%(112/112)(※R2.3時点)</p>	<p>●災害医療コーディネーター任命者数 23名(本部:4名 支部:6 支部19名)(R2.9現在)</p> <p>●災害時周産期リエゾン任命者数 R元:9名(※R2.3時点)</p> <p>●都道府県による地域住民に対する災害医療教育の実施 (県の大学・医学部支援プロジェクトで実施) R元:3回(自治会2、小学校養護教諭)</p> <p>●都道府県による災害関係医療従事者を対象とした研修の実施回数 R元:6回 ※ 高知DMAT研修、MCLS研修(2回) 高知DMATロジスティック研修(2回) エマルゴ研修</p>
プロセス (医療や看護の内容)		<p>●EMISの操作を含む研修・訓練を実施している病院の割合 H29:97%(126/130)→H30:100%(126/126)→R元:95%(119/125) ※R元年度に実施したEMIS入力訓練(3回)に1回以上参加した医療機関の数</p>	
			<p>●災害時の医療チーム等の受入を想定し、都道府県災害対策本部、都道府県医療本部で関係機関(消防、警察等)、公共輸送機関等との連携の確認を行う災害訓練の実施回数 H29:1回→H30:2回→R元:1回 ※災害対策本部事務局等震災対策訓練</p> <p>●災害時の医療チーム等の受入を想定し、関係機関・団体等と連携の上、保健所管轄区や市町村単位等で地域災害医療対策会議のコーディネート機能の確認を行う災害訓練の実施回数 H29:1回→H30:2回→R元:2回 ※災害薬事コーディネーター研修(2回)</p> <p>●広域医療搬送を想定し、都道府県災害対策本部、都道府県医療本部で関係機関(消防、警察等)、公共輸送機関等との連携の確認を行う災害訓練の実施箇所数及び回数 H29:1回→H30:2回→R元:1回 ※災害対策本部事務局等震災対策訓練</p>
	<p>●被災した状況を想定した災害実動訓練を実施した病院の割合 H29:92%(11/12)→H30:100%(12/12)→R元:100%(12/12) (※H31.4時点(R元.11調査))</p> <p>●基幹災害拠点病院における県下の災害関係医療従事者を対象とした研修の実施回数 H29:5回→H30:5回→R元:6回 ※高知DMAT研修、MCLS研修(2回) 高知DMATロジスティック研修(2回) エマルゴ研修</p>		